

くらしき水道ビジョンー2019ー進捗状況 令和5年度版

将来像：倉敷の水道がこのまちの未来を創る

改善 …前年度に比べ改善(R元年度は現状H28年度比)

低下 …前年度に比べ低下(R元年度は現状H28年度比)

※1…指標で英数字で始まっているものは「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標で、それ以外は本市で定めた独自指標。

※2…ビジョン策定時において、現状分析をした際に基準とした年度(H28年度)

取組姿勢		基本施策		具体的取組		アクション		内容		該当する指標(※1)及び検討項目		現状(※2) (H28年度)	進捗状況 R元年度	進捗状況 R2年度	進捗状況 R3年度	進捗状況 R4年度	進捗状況 R5年度	目標 (R10年度)	望ましい 方向	担当課 (●…主担当)
A	水道しゅい口水道エッしヨだナルりまして最高品質の	1	水質管理体制の強化	(1)	水安全計画の運用改善	水安全計画リスクレベル設定の見直し	水安全計画におけるリスクレベル設定について、過去の対応事例のデータを分析し、現状に即したものとなるように設定する。見直しについては毎年行い、水質事故等に対して水安全計画に基づいた対応となるようにする。	水質事故等に対し水安全計画に基づいて対応した事象の割合	56 %	83 %	54 %	70 %	61 %	77 %	85 %	↑	●浄水課 水道管理課 各営業所			
				(2)	水質検査体制の充実	水質分析の精度向上	水質検査の信頼性確保のため、水道GLPの認定を継続する。併せて、厚生労働省が実施する水質検査精度管理のための統一試料調査に参加し、技術的に検査精度が良好であることを確認する。また、検査担当者の勉強会の実施及び専門研修への参加により、専門技術を有する人材を育成する。	厚生労働省統一試料調査全国結果比	8.64 %	9.33 %	4.23 %	11.0 %	3.64 %	5.04 %	5 %	↓	浄水課			
				(3)	定期的な配水池清掃の実施	定期清掃の周期短縮	水道水がお客さまに届くまでの間に水質が劣化することのないよう定期清掃の周期を短縮し実施する。	A203 配水池清掃実施率	31.1 %	52.2 %	47.9 %	55.93 %	65.6 %	67.7 %	60 %	↑	●水道管理課 浄水課 各営業所			
				(4)	小規模貯水槽水道維持管理の促進	小規模貯水槽点検業務	小規模貯水槽水道の管理について、設置者に対する指導、助言及び勧告、また利用者に対する情報提供等を行う。	貯水槽水道巡回点検における効果的な指導・助言の検討	—	—	—	—	終了	終了	R3年度までに検討→終了	—	給水課			
		2	水道水質のさらなる向上	(1)	浄水処理方法の強化	浄水処理の適正な運転管理及び浄水処理方法の見直し	表流水(片島浄水場)のカビ臭等の水質監視強化(水質計器の維持、検査回数等)及びそれに対応する最良の浄水処理方法(活性炭注入量等)を検討する。また、伏流水・地下水を原水とする浄水場について水質基準や各リスク等から紫外線処理など浄水処理方法の見直しを行う。	A102 最大カビ臭物質濃度水質基準比率(水質基準値10ng/L)	20.0 % (2ng/L)	40.0 % (4ng/L)	80.0 % (8ng/L)	20.0 % (2ng/L)	30.0 % (3ng/L)	20.0 % (2ng/L)	10 %	↓	浄水課			
								A103 総トリハロメタン濃度水質基準比率(水質基準値0.1mg/L)	28.5 % (0.0285 mg/L)	12.3 % (0.0123 mg/L)	10.0 % (0.0100 mg/L)	10.3 % (0.0103 mg/L)	20.3 % (0.0203 mg/L)	22.3 % (0.0223 mg/L)	15 %	↓				
								水質に対する苦情対応件数	18 件	23 件	29 件	9 件	23 件	340件	0 件	↓				
				(2)	残留塩素濃度の適正管理	市内給水栓における残留塩素濃度測定の実施及び次亜塩素酸注入量の調整	市内の給水栓で、毎日1回残留塩素濃度を測定し、この結果を、浄水場における塩素注入量に反映させ、残留塩素濃度の平準化を行う。倉敷市内の塩素濃度が、規定値以下にならないように遠隔監視装置等の導入を検討する。	残留塩素濃度のばらつき(標準偏差)	0.076 mg/L	0.073 mg/L	0.072 mg/L	0.068 mg/L	0.082 mg/L	0.061 mg/L	0.060 mg/L	↓	●浄水課 水道管理課 各営業所			

くらしき水道ビジョンー2019ー進捗状況 令和5年度版

将来像：倉敷の水道がこのまちの未来を創る

改善 …前年度に比べ改善(R元年度は現状H28年度比)

低下 …前年度に比べ低下(R元年度は現状H28年度比)

※1…指標で英数字で始まっているものは「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標で、それ以外は本市で定めた独自指標。

※2…ビジョン策定時において、現状分析をした際に基準とした年度(H28年度)

取組姿勢	基本施策	具体的取組	アクション	内容	該当する指標(※1)及び検討項目	現状(※2)(H28年度)	進捗状況R元年度	進捗状況R2年度	進捗状況R3年度	進捗状況R4年度	進捗状況R5年度	目標(R10年度)	望ましい方向	担当課(●…主担当)
B 最小限する自然災害に対する水道システムの被害を	1 水道施設の計画的更新と耐震化	(1) 水道施設更新・耐震化計画の策定	第一期基盤強化計画の策定	今後の水需要動向を踏まえつつ、災害拠点病院等の重要給水施設への供給ルートなどの基幹管路の耐震化整備を重点的に取り組み、施設の統廃合などダウンサイジングを念頭においた整備計画を策定する。	第一期基盤強化計画の策定	—	—	—	計画策定着手	終了	終了	R3年度までに策定→終了	—	企画検査室
		(2) 構造物・設備の計画的更新と耐震化	第一期基盤強化計画の実施	浄水場や配水池に必要なとされる規模や仕様、将来の水需要減少、人口減少等も考慮した浄水場や配水池についての規模の見直し、更新と耐震化を進めていく。	B502 法定耐用年数超過設備率	64.0 %	79.3 %	75.5 %	74.9 %	74.2 %	72.6 %	40 %	↓	●水道建設課 浄水課 企画検査室 水道管理課 各営業所
					B602 浄水施設の耐震化率	27.2 %	27.2 %	27.2 %	27.2 %	27.2 %	27.2 %	100 %	↑	
					B603 ポンプ所の耐震化率	45.0 %	45.0 %	45.0 %	51.3 %	60.3 %	60.6 %	80 %	↑	
					B604 配水池の耐震化率	59.9 %	60.0 %	60.0 %	60.7 %	60.7 %	60.8 %	70 %	↑	
		(3) 管路の計画的更新と耐震化	第一期基盤強化計画の実施	管路整備においては災害拠点病院等の重要給水拠点への整備を優先し、また、老朽管の更新については、将来の水需要減少予測を踏まえたダウンサイジングも考慮し策定した計画に基づいて更新と耐震化を進めていく。	B606-2 基幹管路の耐震適合率	38.2 %	39.4 %	40.5 %	41.5 %	42.3 %	44.3 %	55 %	↑	●水道管理課 企画検査室 各営業所 水道建設課
					B607-2 重要給水施設配水管路の耐震適合率	34.3 %	34.8 %	35.7 %	43.1 %	44.7 %	60.6 %	55 %	↑	
					管路の耐震適合率	17.4 %	20.5 %	21.8 %	22.8 %	23.9 %	24.8 %	30 %	↑	
	2 水道施設の適切な維持管理	(1) 構造物・設備の維持管理	計画的な維持管理の実施	浄水場や取水場における日常の運転管理や点検調査結果により健全性評価を実施し、予防保全に取り組む。	B117 設備点検実施率	26.3 %	61.8 %	61.9 %	61.9 %	97.7 %	97.7 %	100 %	↑	●水道管理課 浄水課 各営業所
		(2) 管路の維持管理	漏水調査業務委託・水圧調査業務委託の実施	大規模な漏水事故を未然に防止するため、埋設年度や使用材料等を考慮し、漏水調査の対象範囲を拡大する。	B112 有収率	93.5 %	93.0 %	92.9 %	93.3 %	93.4 %	92.9 %	96 %	↑	●水道管理課 各営業所

くらしき水道ビジョンー2019ー進捗状況 令和5年度版

将来像：倉敷の水道がこのまちの未来を創る

改善 …前年度に比べ改善(R元年度は現状H28年度比)

低下 …前年度に比べ低下(R元年度は現状H28年度比)

※1…指標で英数字で始まっているものは「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標で、それ以外は本市で定めた独自指標。

※2…ビジョン策定時において、現状分析をした際に基準とした年度(H28年度)

取組姿勢	基本施策	具体的取組	アクション	内容	該当する指標(※1)及び検討項目	現状(※2)(H28年度)	進捗状況R元年度	進捗状況R2年度	進捗状況R3年度	進捗状況R4年度	進捗状況R5年度	目標(R10年度)	望ましい方向	担当課(●…主担当)
B 最小限にする自然災害に対する水道システムの被害を	3 災害対策の充実	(1) 被害を最小化する水道システムの構築	被害を最小化する浄水施設の構築	浄水施設の浸水対策が必要な箇所の洗い出しと浸水対策方法について事例調査を行い、必要な対策を実施する。	浸水対策浄水施設数	1 か所	1か所	1か所	1か所	1か所	1か所	2 か所	↑	●浄水課 水道建設課
		(2) 災害時の対応力強化	災害対策訓練の実施	災害対策マニュアルの見直しを行い、訓練により内容を検証する。これを継続的に行っていくことで対応力の強化を図る。さらに、他都市との合同訓練にも参加し、水道局内外の連携強化を図る。	B210 災害対策訓練実施回数	2 回/年	2 回/年	2 回/年	2 回/年	3 回/年	1 回/年	4 回/年	↑	水道総務課
			停電時の減断水対策	浄水場及び配水池(ポンプ場含む。以下「水道施設」という。)の現状の把握を行う。災害時、長期停電により広域的に減断水となる給水区域を抽出する。減断水する給水区域の水道施設の非常電源について、必要となる設備を設置する。	停電時配水可能施設能力	71 %	71 %	71 %	71 %	79 %	79 %	100 %	↑	●浄水課 水道管理課 水道建設課
			緊急貯留槽の設置	1万人が3日間の水が供給可能な100トン規模の循環型貯留槽を市内の数か所に設置する。	貯留槽の設置基数	0基	0基	0基	0基	2基	3基	5基	↑	水道建設課
			災害時情報収集システムの導入	平成30年7月豪雨の経験を踏まえ、通信機器を使用し、現場の状況を本部がリアルタイムで確認できる仕組みを導入し、災害対策に活用する。R元年度に設備を導入、試験運用と検証を行う。	災害時情報収集システムの導入	—	—	—	検証終了			R3年度 検証終了	—	水道総務課
		(3) 災害対応に係る広域連携の推進	相互応援協定の締結	中四国以外の中核市(同規模自治体)水道事業者等との協定締結を行い、応援・受援できる体制を整える。	中四国地方以外の事業者との協定締結	0 事業者	0 事業者	0 事業者	0 事業者	0 事業者	0 事業者	3 事業者	↑	水道総務課
		(4) 災害対応に係る啓発活動	広報紙における飲料水備蓄啓発の回数増加	広報紙で災害対策の一環として飲料水備蓄の大切さを周知する。また、広報紙に掲載する回数を、現状の2年に1回程度からR2年度から年に1回に変更し、周知の頻度を増やす。	備蓄・ため置き割合	51 %	58 %	61 %	62 %	62 %	68 %	60 %	↑	企画検査室
			水道博物館の活用	水道博物館において、災害対策の一環として飲料水の備蓄に関する展示を行う。										企画検査室

くらしき水道ビジョンー2019ー進捗状況 令和5年度版

将来像：倉敷の水道がこのまちの未来を創る

改善 …前年度に比べ改善(R元年度は現状H28年度比)

低下 …前年度に比べ低下(R元年度は現状H28年度比)

※1…指標で英数字で始まっているものは「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標で、それ以外は本市で定めた独自指標。

※2…ビジョン策定時において、現状分析をした際に基準とした年度(H28年度)

取組姿勢		基本施策	具体的取組		アクション	内容	該当する指標(※1)及び検討項目	現状(※2) (H28年度)	進捗状況 R元年度	進捗状況 R2年度	進捗状況 R3年度	進捗状況 R4年度	進捗状況 R5年度	目標 (R10年度)	望ましい 方向	担当課 (●…主担当)
C	配水循環の事業の一員として自然環境に	1 健全な水循環の維持	(1)	水循環に関する啓発活動の推進	(仮称)水循環イベントの開催	水循環の大切さを伝えるため、水循環に関連した行政組織や民間団体等と連携して計画し、R4年度に実施する。	新たな啓発活動の検討	—	—	水源保全を考える見学会企画	検討終了(見学会は中止)	実施	実施	毎年実施	—	企画検査室
			(2)	水源水質の維持保全	水源保全活動の創出	県や流域の他事業体等との会議である岡山県水道事業広域連携推進検討会において、合同で取り組むことのできる水源保全活動について考察し、実現化を図る。	新たな取組の検討	—	—	—	現状確認・情報交換を実施	—	—	R6年度までに検討	—	企画検査室
		2 環境対策の実施	(1)	環境負荷の低減	省エネ法に基づくエネルギー管理と温対法による温室効果ガス排出量等の削減	エネルギーに関する法律(省エネ法、温対法及び県条例、フロン排出抑制法など)に基づき、エネルギー原単位を前年度比1%削減を目標としたエネルギー管理を行うとともに、機器更新時には省電力機器への更新を実施する。	B303 配水量1㎡当たり二酸化炭素排出量	283 g・CO2 /㎡	271 g・CO2 /㎡	271 g・CO2 /㎡	227 g・CO2 /㎡	215 g・CO2 /㎡	251 g・CO2 /㎡	200 g・CO2/ ㎡	⇩	浄水課
			(2)	資源リサイクルの推進	浄水発生土の有効利用(100%維持)と資源リサイクルの推進	浄水処理過程で発生する汚泥の有効活用率100%維持に努める。水道工事による建設副産物(発生土、アスファルト及びコンクリートガラなど)の管理と有効利用を進める。	B305 浄水発生土の有効利用率 B306 建設副産物のリサイクル率	100 % 99.5 %	100 % 100 %	100 % 100 %	100 % 100 %	100 % 100 %	100 % 100 %	100 % 100 %	100 % 100 %	⇩ ⇩

くらしき水道ビジョンー2019ー進捗状況 令和5年度版

改善 …前年度に比べ改善(R元年度は現状H28年度比)

低下 …前年度に比べ低下(R元年度は現状H28年度比)

将来像：倉敷の水道がこのまちの未来を創る

※1…指標で英数字で始まっているものは「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標で、それ以外は本市で定めた独自指標。

※2…ビジョン策定時において、現状分析をした際に基準とした年度(H28年度)

取組姿勢		基本施策	具体的取組		アクション	内容	該当する指標(※1)及び検討項目	現状(※2) (H28年度)	進捗状況 R元年度	進捗状況 R2年度	進捗状況 R3年度	進捗状況 R4年度	進捗状況 R5年度	目標 (R10年度)	望ましい 方向	担当課 (●…主担当)	
D	水道界の用 優者に企 選んを 目い 指た し 可 す	1	お客さま サービスの 向上	(1)	積極的な情報提供	広報紙の発行	お客さまが知りたい情報をわかりやすく効果的に提供する広報紙にするため、広報紙の内容やレイアウト等をR2年度末までに見直し、R3年度以降から発行回数を増やしていく。	広報紙による情報の提供度	4.4部/世帯	4.9部/世帯	5.6部/世帯	6.4部/世帯	5.6部/世帯	6.3部/世帯	6部/世帯	↑	企画検査室
						ホームページの活用	水道局ホームページのコンテンツ充実を図るとともに、お客さまが必要とする情報にアクセスしやすいよう、リニューアルをR3年度から実施する。	インターネットアクセス回数	96,766回	211,469回	240,286回	214,905回	222,210回	374,865回	300,000回	↑	企画検査室
				(2)	お客さまニーズの把握	アンケートによるお客さまニーズの把握	現在行っている水道展、市民モニターに加え、来庁者へのアンケートを実施し、お客さまニーズの把握の機会を増やす。また、SNSなどの活用については、R4年度から実施する。	C502 アンケート情報収集割合	2.0人/1,000人	1.92人/1,000人	1.22人/1,000人	2.35人/1,000人	2.11人/1,000人	2.20人/1,000人	2.5人/1,000人	↑	企画検査室
						(3)	広報活動の点検・改善	広報活動の発展的見直し	水道利用者と水道局との双方向コミュニケーションを拡大・充実させるための広報活動について、アンケートや水道事業経営審議会でのご意見を参考にR5年度までに改善を図る。	広報活動の再検討・実施	—	—	市職員向け「ニュースレター」発行開始	TwitterとYouTube利用開始・Web版広報紙発行	終了	終了	R5年度までに実施→終了
				(4)	お客さまサービスの改善・向上	問い合わせ・苦情に対する取り組み	水道事業に対するお客様の満足度や信頼度が高まるよう、お客様サービスの改善・向上を図る。	お問い合わせ・苦情対応の再検討	—	—	—	—	終了	終了	R3年度までに検討→終了	—	水道総務課
						水道料金支払い方法の多様化	水道料金の新たな支払い方法の導入について、お客様の利便性の向上を図るため、費用対効果を踏まえながら最新情報及び他の水道事業体の動向など、支払い方法の多様化に向けて調査・研究をする。	水道料金の支払方法の多様化の検討	—	—	電子決済の開始	検針同時納入通知書発行開始	電子決済アプリの増(6→9)	電子決済アプリの増(9→10)	R5年度までに検討	—	水道営業課
		2	財政基盤の強化	(1)	自己資金の確保	資金残高の管理	災害のような非常時における事業運営のために最低限30億円が必要と見込んでいるため、資金残高がその水準となるよう、財政計画において自己資金を確保する。	資金残高	36億円	35億円	32億円	27億円	27億円	16億円	30～20億円	↑	●企画検査室 水道総務課
				(2)	料金水準の継続的な検討	料金水準の算定	第一期基盤強化計画の進捗状況、第一期基盤強化計画の策定内容を考慮しながら財政計画を立て、適正な料金水準の算定を行う。	料金水準の検討	—	—	—	—	—	—	毎年実施	—	企画検査室
				(3)	企業債の計画的な活用	企業債残高と発行額の管理	企業債残高の増加を1～2割以内に留め、10年以内に減少に転じさせられるよう、財政計画で発行額の適正な管理を行う。	企業債残高	164億円	161億円	163億円	166億円	171億円	177億円	197億円以下	↓	企画検査室
				(4)	水道水の利用促進	水道水の安全性やおいしさのPR	広報紙やイベント等様々な機会において、水道水の利用促進に関する内容を掲載し、水道水の安全性やおいしさをPRする。	C503 直接飲用率	95.8%	96.9%	98.3%	97.8%	98.3%	97.1%	98.0%	↑	企画検査室

くらしき水道ビジョンー2019ー進捗状況 令和5年度版

将来像：倉敷の水道がこのまちの未来を創る

改善 …前年度に比べ改善(R元年度は現状H28年度比)

低下 …前年度に比べ低下(R元年度は現状H28年度比)

※1…指標で英数字で始まっているものは「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標で、それ以外は本市で定めた独自指標。

※2…ビジョン策定時において、現状分析をした際に基準とした年度(H28年度)

取組姿勢		基本施策	具体的取組		アクション	内容	該当する指標(※1)及び検討項目	現状(※2)(H28年度)	進捗状況R元年度	進捗状況R2年度	進捗状況R3年度	進捗状況R4年度	進捗状況R5年度	目標(R10年度)	望ましい方向	担当課(●…主担当)	
D	水道界利の用優者に企選業んを目い指たしだけける	3	事業・業務の効率化	(1)	水道施設の最適化	第一期基盤強化計画の策定	施設の存続、統廃合及びダウンサイジングを考慮し策定する。	第一期基盤強化計画の策定	—	—	—	—	終了	終了	R3年度までに検討→終了	—	●企画検査室 水道建設課 水道管理課 各営業所
				(2)	事業の進捗管理と計画の定期的見直し	第一期基盤強化計画の進捗管理	第一期基盤強化計画の実施期間においては計画の中間となる5箇年での見直しを行い、社会情勢の変化を考慮し事業費の平準化に努める。	第一期基盤強化計画の検証・見直し	1回	—	—	—	—	R9年度までに実施	↑	企画検査室	
				(3)	業務執行体制の確保と新たな連携の検討	水道管理設工事における官民連携	水道施設の更新・耐震化工事の増加に対応するため、官民連携について新たな手法を決定する。	新たな官民連携の検討	—	—	—	—	工事発注準備中	工事発注	小規模簡易DBの導入	—	水道建設課
						物資共同調達および新たな連携の検証	岡山県水道事業広域連携推進検討会南西部会において、物品共同調達実現可能性並びに新たな連携について協議検討を行う。	共同調達に係る参加団体数	0団体	0団体	0団体	0団体	終了	終了	12団体→終了	↑	●企画検査室 水道総務課
				(4)	業務改善の推進	業務改善案が提出しやすい体制づくり	個人の事務の改善から組織的な業務改善まで、幅広く全員参加で業務改善に取り組む。	業務改善案提出件数	6件	7件	8件	0件	0件	0件	40件	↑	●水道総務課各課
						電子入札の対象拡大	修繕工事及び業務委託工事等についても、電子入札システムを活用した入札を実施する。	入札制度の検討	毎年実施	毎年実施	毎年実施	完了	完了	完了	毎年実施	—	●水道総務課各課
						IoT技術の活用	IoT、ICT、AI、DX等、発達したインターネット網を利用した技術について情報収集し、導入の可能性を検討する。	IoT技術を活用したシステムの導入	—	2件	4件	3件	2件	3件	3件	↑	●企画検査室各課
	4	人材育成と技術の向上	(1)	専門職員や資格保有者の確保	専門職員の育成及び資格の取得の奨励	業務に必要な資格の取得を奨励し、資格取得者の増員を目指す。	C201 水道技術に関する資格取得度	2.12件/人	2.26件/人	2.02件/人	2.08件/人	2.21件/人	2.26件/人	3件/人	↑	●水道総務課 水道管理課	
							(2)	技術力の向上	専門知識の推進	C202 外部研修時間	7.9時間/人	19.5時間/人	2.9時間/人	1.6時間/人	9.9時間/人	11.4時間/人	20時間/人
			C203 内部研修時間	2.1時間/人	0.9時間/人	1.9時間/人				9.0時間/人	11.2時間/人	10.4時間/人	10時間/人	↑			
			ステップアップ研修の実施	—	—	—				3回/年	3回/年	3回/年	3回/年	↑			